



一般社団法人 グリーンビルディングジャパン
www.gbj.or.jp

GBJ

BOOKLET
2018

これからのサステイナブルな
環境づくりのために大切なこと
～LEED、WELL、Arc、GSESB、SITES～

www.gbj.or.jp



INDEX

02 Introduction LEED	15 一般公開ビデオ
04 Introduction WEEL	16 GBJ会員による論考
05 Introduction 日本国内に対応した基準	18 Q&A
06 Introduction GRESB	20 GBJとは? 概要/理事・監事・運営委員・WG紹介
07 Introduction Arc / SITES	21 GBJとは? WG・支部紹介
08 GBJセミナー	22 GBJとは? 入会案内
14 LEED認証プロジェクト見学会	25 法人会員紹介

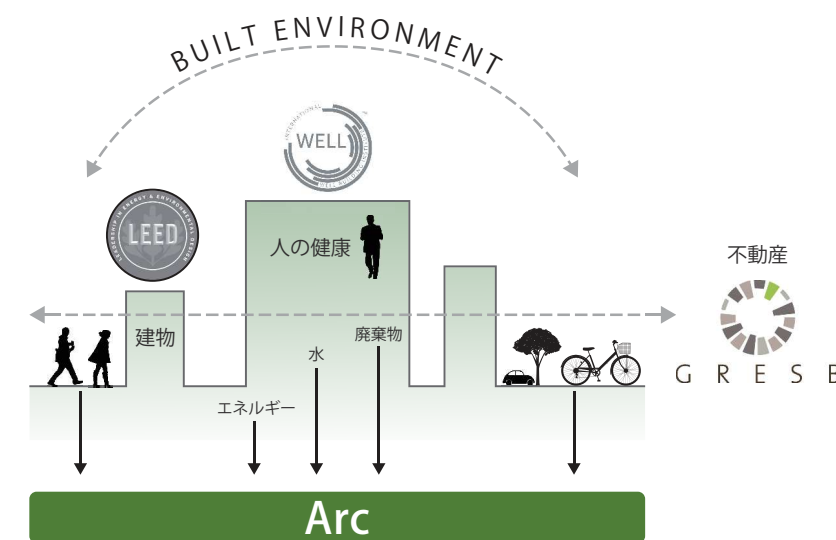
GBJブックレット2018

これからのサステイナブルな 環境づくりのために大切なこと

～LEED、WELL、Arc、GRESB、SITES～

2013年にLEEDに関わるUSGBCとの協議の日本側窓口として設立した一般社団法人グリーンビルディングジャパン (GBJ) は草の根的な活動から始めて5周年を迎え、おかげさまで法人会員数50に迫り、建設・製造・不動産・コンサルティング・建築設計・ビル経営・試験評価と多くの企業が参画するフォーラムへと成長しました。活動の範囲も、LEEDやグリーンビルのみならず、働く人の生産性とウェルビーイングに着目したWELL、不動産投資判断のツールとなるGRESB、ESG投資へとサステイナブルな社会に関わること全般へ広がりました。

このブックレットはサステイナブルな社会づくりに関わるグローバルな仕組み、多岐にわたるGBJの活動を知っていただくことを目的に作成しました。こちらをインデックスとして、より詳細な情報についてはQRコードからGBJウェブサイトへ飛べるようになっています。21世紀の社会において、エネルギー消費の削減や環境負荷低減など、ビルディングやインフラに関する課題、働き方改革などで議論されている労働生産性や働く人の健康などは、すべてサステナビリティという観点でつながっています。この小冊子がさまざまな課題を網羅的に把握し、小さな個別の取り組みを大きなうねりに変えていく一助となることを願っています。



LEED

Leadership in Energy & Environmental Design



LEEDとは…

非営利団体 USGBC* が開発し、GBCI** が運用を行っているビルト・エンバイロメント(建築や都市の環境)の環境性能評価システムです。

LEEDは、最高クラスのビルト・エンバイロメントを作るための戦略やそれらをどう実現させるかを評価するグリーンビルディングの認証プログラムです。

LEED認証を受けるためには、グリーンビルディングとして備えるべきいくつかの必須条件(Prerequisite)を満たし、選択項目のポイント(Credit Points)を選んで取得する必要があります。取得したポイントによって認証のレベルが決まります。必須条件と選択項目のポイントは認証システムごとに設定されています。実際のプロジェクトでは最もふさわしい認証システムを選ぶことができます。LEEDは、ビルト・エンバイロメントが、設計され、建設され、維持され、オペレーションされてきた方法を、世界中で変革させようとしています。コストや資源の削減を進めながら、人々の健康に良い影響を与え得ることに配慮し、また、再生可能なクリーンエネルギーを促進している建築物の認証を行っています。

USGBC*:U.S. Green Building Council, GBCI**: Green Business Certification Inc.



日本国内におけるLEED 認証プロジェクト

<https://www.gbj.or.jp/document/certified-projects/>

102	パッシブタウン黒部第3期 街区K棟	Low-rise multi-family	富山	LEED-HOMES v2008	プラチナ	https://www.usgbc.org/projects/passive-town-kurobe-phase3-buildingk	http://www.gbj.or.jp/buildings/1072570	2017/10/30	2016/10/17
101	ミュウミュウ 神戸店	小売店舗: その他の小売店舗	兵庫	LEED-CI Retail v2009	シルバー	https://www.usgbc.org/projects/miu-miu-kobe		2017/9/29	2016/10/26
100	横浜銀行本店	事務所: 金融	神奈川	LEED-EB:OM v2009	ゴールド			2017/9/28	2016/8/1
99	ランドポート 高槻	倉庫: 非冷蔵流通/卸	大阪	LEED-CS v2009	ゴールド	https://www.usgbc.org/projects/landport-takatsuki	http://www.gbj.or.jp/buildings/1179183	2017/9/21	2015/11/29



認証システムの種類



LEEDには評価する目的に対応した、5種類の認証システムが用意されています。

評価項目



各評価項目において必須条件を満たした上で、選択項目によってポイントを加算して評価します。

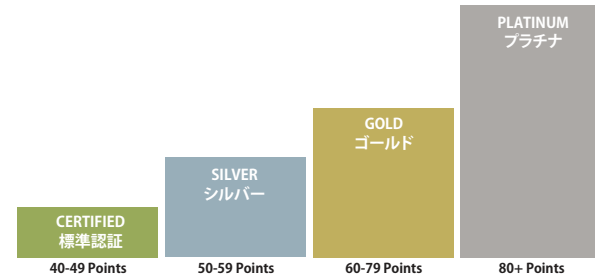
世界の認証件数

2018.5.31 現在

アメリカ合衆国	58,483	トルコ	335	ポーランド	144
カナダ	3,821	ドイツ	299	台湾	132
中華人民共和国	1,343	スウェーデン	270	コロンビア	132
サウジアラビア	856	スペイン	262	韓国	127
インド	809	イタリア	211	日本	111
ブラジル	488	香港	183	その他	1,854
メキシコ	345	チリ	183		
アラブ首長国連邦	337	フィンランド	166	合計	70,891

LEEDは世界で最も広く利用されているグリーンビルディング評価システムです。

認証のレベル



取得したポイントの合計によって認証のレベルが決まります。

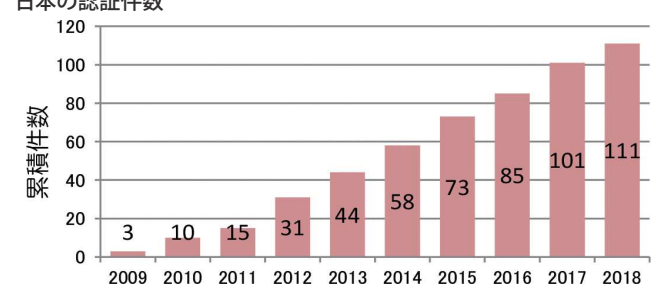
資格



LEED Green Associateは、グリーンビルディングの入門資格です。さらに、LEED APは、特定のLEED評価システムにおける専門性とグリーンビルディングの高度な知識を有する専門資格です。

日本の認証件数

2018.5.31 現在



日本国内での認証件数も年々増加しています。

LEED 用語集

<https://www.gbj.or.jp/document/leed-glossary/>

				with Pesticides (www.epa.gov/pesticides factsheets/treatart.htm).	
adhesive	接着剤		v2009	any substance used to bond 1 surface to another by attachment. Adhesives include bonding primers, adhesive primers, and adhesive primers for plastics. (SCAQMD Rule 1168)	1つの表面を別の表面に、貼付して接着するために使用される物質。接着剤には、接着用下塗剤、定着剤、およびプラスチック用定着剤が含まれる。(SCAQMD Rule 1168)
adjacent site	開発隣接地	v4		a site having at least a continuous 25% of its boundary bordering parcels that are developed sites. Only	少なくとも26%以上の連続した区画境界で既開発地に隣接した敷地。この計算には実際に隣接する区画のみを考慮し、通行権を有する道の部分を考慮しない。水域に隣接する境界部分も計算から除外する。



LEED クレジット概要リスト

<https://www.gbj.or.jp/document/leed-nc-cs-credlist/>

Sustainable Sites				持続可能な敷地				26	28			
SSp1	○	○	Construction Activity Pollution Prevention	建設活動での汚染防止	土壌流出・水路沈下・粉塵対策を行うことで建設行為による土壌汚染を低減する。	2003年度EPA「Construction General Permit」またはローカルの同様条例・基準などの厳しい方に準じた土壌侵食及び堆積抑制計画(erosion and sedimentation control plan)の作成・実施・記録を行う。	2003年度EPA建設総合許可(U.S. Environmental Protection Agency Construction General Permit)	-	-	c		
SSc1	○	○	Site Selection	敷地選	不適切な土地を選ばない	環境を損なわず、生態系を脅かさないように開発条件を全て満たす	- U.S. Department of Agriculture, United States	1	1	d		

WELL

WELL Building Standard™



「WELL Building Standard™」(WELL認証)とは、空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造を目指した評価システムです。

公益企業(PBC)であるIWBIから2014年10月20日にv1.0として正式公開され、スタートしました。

「身体的、精神的、社会的に良好な状態=ウェルビーイング」を重視しています。

建物の性能としてLEEDやCASBEE等で評価されてきた環境・エネルギー性能に加えて、建物内で暮らし、働く居住者の健康・快適性に焦点を当てた世界初の建物・室内環境評価システムであり、特に居住者の身体に関わる評価ポイントについては、環境工学の観点のみならず医学の見地から検証が加えられています。

2018年5月末にWELL V2がリリースされる予定です。11月までは現在のV1でも登録可能です。V1のプロジェクトはV2に移行することが可能です。V2の内容は開示され次第、GBJでフォローしていきます。(2018.5.30時点)

WELL認証制度はIWBI (International WELL Building Institute) が運営し、実際の認証業務はLEEDの認証も手がけるGBCI (Green Business Certification Inc.) が行っています。

認証システムの種類

主な認証システムタイプとして3タイプあります。

- ① New and Existing Buildings 「新築/既存建物版」
- ② New and Existing Interiors 「新築/既存インテリア版」
- ③ Core & Shell 「コア&シェル版」

- ★現在、パイロット版として以下の用途別WELL認証があります。
集合住宅版、教育機関版、店舗版、レストラン版、業務用キッチン版
- ★どんなタイプの建物でも認証可能なものとして「ALL Project In版」も開始されました。
- ★WELL Community PILOT (街区レベルでの認証) もあります。

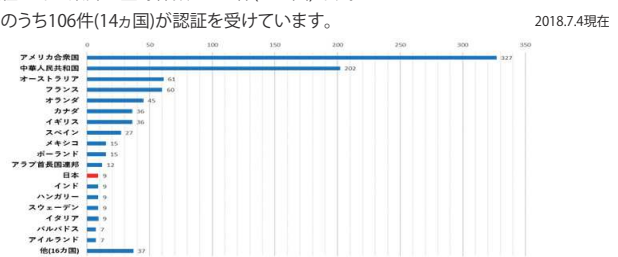
評価項目

- ①空気、②水、③食物、④光、⑤フィットネス、⑥快適性、⑦こころ、の7つの概念に分けられます。



世界の登録件数

現在までの累計の登録件数は932件(34カ国)です。そのうち106件(14カ国)が認証を受けています。



認証のレベル

WELL基準認証のレベルは、Platinum, Gold, Silverの3段階です。建物版では必須41+加点59項目+ボーナス5項目=全105項目。(タイプにより項目数は異なる)



資格



「WELL AP」

WELL AP (WELL Accredited Professional)は、WELL評価システムにおける専門性と高度な知識を有する専門資格です。WELLプロジェクトの支援を行う人です。WELL認証の評価員ではありません。日本国内にて、英語+日本語併記で試験を受けることができます。

日本の登録件数

日本の現在までの累計の登録件数は8件です。そのうち1件認証。認証されているのは大林組技術研究所本館テクノステーションでNew and Existing Buildings では世界初です。

プロジェクト名	面積 (㎡)	都県	市	Ver.	プロジェクトタイプ	登録日	認証日	認証レベル
大林組技術研究所本館テクノステーション	5,535	東京	清瀬市	v1	New and Existing Buildings	2018年7月15日	2017年11月21日	Gold
Private Project	4,342	東京	江東区	v1	New and Existing Buildings	2017年6月5日		
横浜グラングート	97,243	神奈川県	横浜市	v1	Core & Shell	2017年8月25日		手続中
Private Project	6,008	兵庫県	神戸市	Pilot		2017年9月4日		
Private Project	1,100	神奈川県	横浜市	v1	New and Existing Buildings	2017年10月2日		
Private Project	1,708	東京	中央区	v1	New and Existing Interiors	2017年12月21日		
Private Project	7,110	東京	中央区	v1	New and Existing Interiors	2018年1月15日		
Private Project	29,747	東京	江東区	v1	New and Existing Buildings	2018年2月9日		
Private Project	12,183	東京	渋谷区	v1	New and Existing Buildings	2018年5月31日		

日本国内に対応した基準

LEED及びWELLは元々米国で開発されて、また評価に米国の基準を多く参照しているため、日本では使いにくく、認証を取ってもあまり意味がないのではないかといった誤解があります。実際にはLEEDとWELL共に世界中で使われていて、国の境界を越えてグローバルに比較できる認証システムとして世界中に認知されています。評価基準や評価結果が世界中で使えるようにする一つの重要な仕組みは、LEEDあるいはWELLが各プロジェクトに達成してほしいとしている水準を満たすための方法に、各国や地域の基準を取り入れることが出来るオプションを設定していることです。もちろんそれらはLEEDあるいはWELLで設定されている「達成すべき意図」を十分に理解し、同様の成果が期待できる方法でなければなりません。

GBJでは法人会員・個人会員の皆さんからの応援・フィードバックを活かしながら日本で使えるLEED ACPまたWELL AAP/EPを進めています。



LEED ACP

<https://www.gbj.or.jp/leed-acp/>

LEED ACP (Alternative Compliance Path オルタナティブコンプライアンスパス)は、米国以外のプロジェクトでLEEDクレジットの基準を満たしていることが簡単には説明できない場合に、別のアプローチを設定することが出来るようにすることで、世界中のプロジェクトがLEEDを適用しやすくするために設定されています。大事な点は、LEEDクレジットの基準の意図する目的を変えたり、また成果のレベルを下げたりすることなくACPを設定する必要があるという点です。

つまり、それぞれの国や地域ですでに使われている基準や方法で、LEEDクレジットが考えている意図を達成できることが、審査を通じて確認できれば、その国や地域の状況に合った別のアプローチでクレジットを取ることが出来ます。

GBJが取り組んで、すでにACP(試験的運用として)成立しているものは次のようなものがあります。

- LEED v4(バージョン4)では、基本的にすべてのビル全体が禁煙であることを求めています。旧バージョンで認められていた屋内喫煙室のオプションが認められなくなったために、日本においては都心部のビルを中心にLEED v4の基準に対応した設計・運用ができるかどうか懸念されるというフィードバックが多く寄せられていました。GBJでは日本の喫煙規制と世界の基準では隔たりがあり、徐々にビル全体が禁煙といった方向に移行していくことは想定しつつ、現時点で計画、設計、建設あるいは既に運用されているビルでもLEED v4で認証が受けられるような方法を模索していました。GBJではUSGBC/GBCIと協議し、プロジェクト対象のビル全体を禁煙にするのと同様の結果を出せ

る屋内喫煙室の設計および運用基準を設定し、それぞれのプロジェクトで試験的に適用できる方法を作っています。このACPを実際に使った初めてのプロジェクトが認証を受ける予定で進められています。また現在取り組んでいるものは次のようなものがあります。

- エアフィルターの仕様に関して、ASHRAE MERVとJISのフィルター基準との読み替え

- VOC低減の要求基準に関して、カリフォルニア公衆保健局(CDPH)に代替する日本型の方法

GBJはLEED International Roundtable Member(約30か国の代表で構成されるLEEDに対するアドバイザリーグループ)の一員として組織的に、またそれぞれのプロジェクト毎に、ACPに取り組んでいます。

WELL AAP/EP

<https://www.gbj.or.jp/well-aaep/>



WELL AAP/EP (Alternative Adherence Paths オルタナティブアドヒアランスパス、Equivalency Proposal イクイバレンシブプロポーザル)は、IWBI (International WELL Building Institute インターナショナル ウェル ビルディング インスティテュート) が許可した代替案を通じて機能要求を満たすための方法です。LEEDと同様にWELLの要求基準もその多くが米国の基準を参照していますが、それぞれの要求基準が求めているものと同様の成果をそれぞれの国や地域ですでに使われている基準や方法で可能であると証明できる場合に、それらのアプローチを取ることが出来ます。

GBJのWELLワーキンググループが取り組んで、すでにAAP、EPとして成立しているものは次のようなものがあります。

AAP:

- エルゴノミクス: シートの調節機能に関して: HFES 100 基準または BIFMA G1 ガイドラインの代わりに、日本人の標準的な身体サイズに適した寸法でも認めてもらう可能性について。

EP:

- バリアフリー規定に関して: Americans with Disabilities Act (ADA) の代わりに「福祉のまちづくり条例」が使える。
- 空気質に影響するコピー機の認証に関して: Blue Angel(ブルーエンジェル)の代わりにエコラベルNo.155が使える。
- また現在取り組んでいるものは次のようなものがあります。
- 食品アレルギーに関して日本の食品表示法(2015/4改訂)で代替できないか(申請中)

- 責任ある食品生産・持続可能な農業に関して日本での「有機JIS」マークで代替できないか(申請予定)

GBJは、IWBIのGlobal Marketing Partnerとなり*これからも

WELL認証がより日本で使いやすくなるように活動していきます。



GRESB

<https://www.gbj.or.jp/gresb/>



GRESB評価とその広がり

GRESBは、不動産セクターの会社・ファンド単位での環境・社会・ガバナンス(ESG)配慮を図り、投資先の選定や投資先との対話に用いるためのツールとして、APGやPGGMなどの欧州の年金基金を中心に2009年に創設されました。現在ではGBCIがGRESBの親会社となり、米国、豪州、アジアなどの機関投資家が参画しています。

元々は「Global Real Estate Sustainability Benchmark(グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク)」の略でしたが、ここ数年は、インフラ等、実物資産関連の様々なアセットクラスに評価対象が広がったため(図1)、GRESB(グレスビー、グレスブ)と略語で総称されるようになりました。

不動産を対象とする「GRESBリアルエステイト」の中においても、メインのGRESBリアルエステイト評価・ディベロッパー評価にプラスして任意での参加ができる「健康と快適性モジュール」や「レジリエンスモジュール」、また、リアルエステイト評価等への参加者でなくても開示情報によって格付けされる「GRESB開示評価(GRESB Public Disclosure)」も開始されるなど、メニューの多様化が進んでいます。

図1 GRESB評価の枠組み



(出典: CSRデザイン環境投資顧問)

参加者

「GRESBリアルエステイト」への参加者は毎年増加しており、2017年は、グローバルで850、日本で53となりました(図2)。日本の内訳はJ-REITが多く34社(時価総額ベースでJ-REIT市場の85%(2017年9月初め時点))であり、生命保険会社、私募リートなどからの参加も増え始めています。また、開示評価については、大手ディベロッパー各社

も対象となっており、積極的に参加されています。また、「GRESBインフラストラクチャー」にも、2017年に日本からの初参加がありました。

図2 GRESBリアルエステイト評価参加者数の推移(2010~2017年)



(出典: CSRデザイン環境投資顧問)

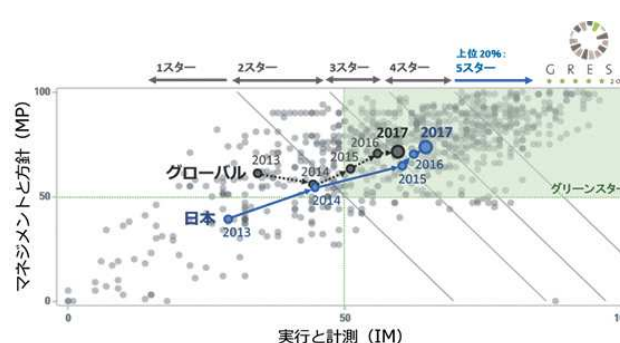
評価方法、スコア概要と評価項目

「GRESBリアルエステイト評価」では、総合スコアのグローバル順位によって格付(GRESB Rating)が与えられ、上位20%が「5スター」、次の20%が「4スター」などと呼ばれます。また、「実行と計測(IM: Implementation & Measurement)」と「マネジメントと方針(MP: Management & Policy)」の2軸のスコアによって図3のようにプロットされ、その両軸とも50%以上の好評価を得た参加者には「グリーンスター」の称号が与えられます。

なお、評価項目は、サステナビリティに関する社内体制や方針の制定状況、ESG情報の開示状況をはじめ、LEEDやWELLを含むグリーンビル認証の取得実績、保有不動産物件を通じた環境負荷削減、テナントとの環境・社会配慮の協働など、多岐に渡ります。

日本参加者は毎年着実に平均スコアを上げ、2014年以降はグローバル平均よりも優位を維持しています。

図3 日本・グローバルのスコア推移(2013~2017年)とGRESBの評価方式



(出典: CSRデザイン環境投資顧問)

*QRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

Arc

<https://www.gbj.or.jp/arc/>



Arcは、エネルギー、水、廃棄物、交通、ヒューマンエクスペリエンスという5つのKPI(キーパフォーマンスインディケーター:最重要指標)について世界中から収集するデータベースと行動パターンとの相対比較をした上で、パフォーマンススコアと呼ばれる100点満点での評価を行います。その評点はデータ入力をするたびに更新され、それに伴って再認証を受ける際の認証ランクも変わり、ダイナミックブラークと呼ばれるリアルタイムのデジタルサイネージに表示されます。



「現在の成績」を起点にして新たに設定する目標に向かう進捗を可視化し、達成度が高い項目と改善が必要な項目を関係者全員が共有できるように、システムが設計されています。Arcを利用することで、複数の関係者の間に横たわる、意思決定プロセスにおける複雑さやハードルを取り払い、物事をシンプルに推し進めることが可能になります。

USGBCとGBCIは過去20年にわたり、グリーンビルディングに関するデータを収集してきました。蓄積されたデータ量は世界に比類なきものといって良いでしょう。そして今、USGBCとGBCIはそのデータベースを基に、プロジェクトの運用パフォーマンスを継続的にモニタリングし、リアルタイムでの同種プロジェクトとの相対評価を提供し、時を追うごとに更新される必要のあるサステナビリティ戦略の策定と目標の達成を助ける、Arcというプラットフォームを構築しました。Arcを運営する主体はGBCIが立ち上げたArc Skoru Inc.という組織で、あらゆるデータとサステナビリティを目指す行動をつなぐことで、QOLを高めていくためのプラットフォームを作ることされています。Arcは、現時点でLEED認証取得済みのプロジェクトとLEED Onlineへの登録を済ませて申請中のプロジェクトはもちろんのこと、まだLEED認証へのチャレンジを決めていないプロジェクトであっても、サステナビリティと人間の健康に係る性能を高めることを目指す全てのプロジェクトが利用できるシステムです。ここでいう全てのプロジェクトとは、オフィス、小売店舗、病院、集合住宅、スタジアム、高齢者介護施設、学校、教育施設、公共施設、ホテル、ショッピングモール、工場、物流施設など世界中にある多様な用途のビル、そして複数のビルが存在する街区、コミュニティ、BID(ビジネスインブループメントディストリクト)、シティー(自治体)を対象とするものです。

「新築」と「既存建物」、「新規開発」と「既存街区」という関係で見ると、LEED BD+C(新築版LEED)が運用開始後にLEED O+M(既存版LEED)を適用し、その後のRe-Certification(再認証)の手続きに入るのを助け、またLEED ND(街区開発版)取得済み街区、または既存の都市がLEEDコミュニティやLEEDシティの認証を目指すのを助け、さらにはLEEDなどの認証をまだ取得していないプロジェクトが、LEEDやその他GBCIプロダクト(WELL, SITES, GRESBなど)の認証を取得するのを手助けするプラットフォームであるという言い方もできます。

SITES

<https://www.gbj.or.jp/sites/>



USGBCが制度設計をし、GBCIが審査をする評価認証プログラムに、ランドスケープに特化したSustainable SITES Initiative、略してSITESが加わり、v2からは米国外での適用も可能になりました。これまではともすると過小評価されがちであった土壌、植物、水、ハードスケープの総体としてのランドスケープのもたらす便益を捉え直し、正しく価値化(マネタイズ)しようとする仕組みです。2015年に国土交通省が発行した国土形成計画にも記載され、最近日本でも注目が高まっているグリーンインフラの設計・技術・管理指針であり、定量的に評価するシステムでもあります。LEEDとは違い、特に建物がないプロジェクトでも評価対象になるため、公共公園、公開空地、商業地や住宅地などにデザインされる都市のオープンスペース、民有地緑化、屋上庭園、ストリート・スケープ(街路のデザイン)、大学キャンパス、美術館や病院に併設された緑化空間なども認証の対象となります。最低必要面積は186㎡(2,000平方フィート)と下限は定められていますが、上限は特になく、日本でも規模の大小を問わず取り組みが始まっています。



Seminar Report

セミナー資料

<https://www.gbj.or.jp/document/seminar-document/>



GBJでは月1回のペースでセミナーを企画実施しており、2018年5月現在で通算43回を数えます。LEEDについては、総合解説やLEED AP受験資格講座のほか、エネルギー使用量への要件、マテリアルに関する要求事項など、個別クレジットに関わる専門的なテーマでもセミナーを行ってきました。

第17回 LEED-NC Ver.3 クレジット解説(前編)

日時:2015年6月23日(火)
会場:アズビル株式会社 本社会議室
講師:川島 実 氏 (清水建設 技術研究所)



第18回 LEED-NC Ver.3 クレジット解説(後編)

日時:2015年7月21日(火)
会場:アズビル株式会社 本社会議室
講師:川島 実 氏 (清水建設 技術研究所)



ご希望が多かったVer.3(2009)を2回に分けて詳しく解説しました。「持続可能な敷地選定」、「水の効率的な利用」、「エネルギーと大気」、「材料と資源」、「室内環境品質」といった各クレジットの解説に加え、実際にクレジットを取得するための手続き、資料のまとめ方といった実務も紹介され、大変好評を博しました。

第20回 LEED受験対策講座 今日から始めよう! LEED資格試験準備

日時:2015年11月10日(火)
会場:丸の内トラストタワー本館
講師:高木 智子 氏 (CSRデザイン環境投資顧問)
本郷 創 氏 (清水建設)
宮本 順子 氏 (レンドリース・ジャパン)



LEED AP・Green Associateとなるための資格試験へ向けた受験登録、勉強方法、教材、当日のアドバイスまで具体的・実践的な体験談と解説です。

まず、試験の申込み方法などの基礎の基礎からの具体的なHow toを、CSRデザイン環境投資顧問 高木氏から丁寧にご説明し、次に清水建設の本郷氏、レンドリース・ジャパンの宮本氏から、AP試験準備で実際に使った教材や、実践的な勉強方法などの「体験談」をお話していただきました。

1. 受験申請-具体的なHow to 高木 智子 氏

- 1-1. LEED AP・Green Associateとは、受験資格
- 1-2. 試験の実施体制、申込み、日本語で得られる資料
- 1-3. 受験者用ハンドブックの入手, "My Credentials"アカウント作成
- 1-4. 受験登録 (USGBCのアカウントから)
- 1-5. 試験予約 (Prometricのサイトから)
- 1-6. キャンセル・日程変更 (Prometricから)
- 1-7. 試験範囲, 参考文献, 勉強方法
- 1-8. 試験当日と合格後

2. LEED資格試験体験談 本郷 創 氏

- 2-1. 私のLEED資格試験体験談, LEED資格受験に至る経緯, 受験までのスケジュール, LEED AP GA は同時受験がお得?



LEED資格試験の構成

LEED APの受験では、LEED Green Associateを持っていると、Part 1試験は免除。

Part 1 試験 / Green Associate 試験

Part 2 試験 / AP 試験

実施主体: Prometric
試験会場: 日本で2箇所 (東京(御茶ノ水)、大阪(中津))
試験方法: コンピュータ上
試験時間: 各2時間
設問数: 各100問 (それぞれ4~5個の回答肢から選択)
合格点: 170点 (125~200点で採点)

毎年7月1日に新しい試験に (6月15日~6月30日は試験設定なし) 1月末までのLEED addendaが反映される

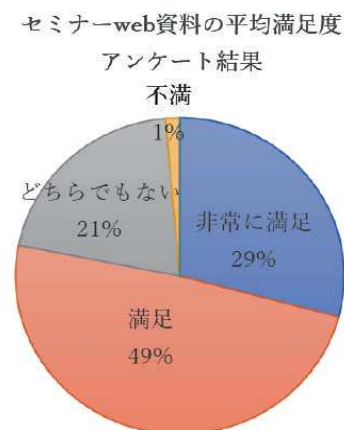
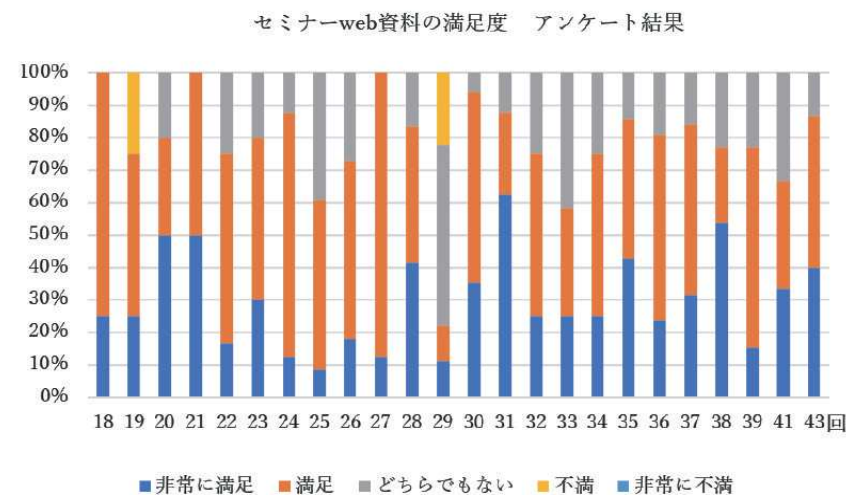
無料の試験テキスト(対策本) <タスク分野>

- LEED AP Candidate handbook 記載の参考サイトの活用 (有料教材は不要)

References

- U.S. Green Building Council. Green Building and LEED Core Concepts Guide, 3rd Edition. U.S. Green Building Council, 2011. Print and Digital versions available.
- U.S. Green Building Council. Introductory and Overview Sections. LEED Building Design + Construction Reference Guide, v4 Edition. U.S. Green Building Council, 2018. Web. *Note that the introductory and overview sections are available to download separately from purchasing the full reference guide.
- U.S. Green Building Council. LEED v4 Impact Category and Point Allocation Process Overview. U.S. Green Building Council, 2015. Web.
- U.S. Green Building Council. LEED v4 User Guide. U.S. Green Building Council, 2013. Web.
- U.S. Green Building Council. Guide to LEED Certification: Commercial. U.S. Green Building Council, 2014. Web.
- "LEED Certification Fees." U.S. Green Building Council, 2014. Web.
- "Rating System Selection Guidance." U.S. Green Building Council, 2014. Web.
- "Addenda Database." U.S. Green Building Council. Web.

GBJ会員は過去のセミナー資料をウェブサイトで閲覧できます。セミナー会場でのアンケートによれば、下表のとおり多くの方に満足いただいております。セミナーを直接受講できない方でも当日と同じコンテンツを講師の音声とともにご覧いただくことができます。また、今年度よりネット環境を用いたセミナーのリモート受講を試行しており、遠方にお住まいの方でもインタラクティブに参加できる環境を整えつつあります。



第31回 LEED Green Associate / LEED AP 資格取得 体験談

日時:2017年1月27日(金)
会場:アズビル株式会社 本社会議室
講師:橋本 誠 氏 (ジョンソンコントロールズ)
米田 桜子 氏 (ジョンソンコントロールズ)



受験申込みや当日の受験の仕方等の基礎的な事項から、受験対策教材と具体的な勉強方法などの実践的な事項まで、実際の体験談を交えて解説いただきました。

2-2. 私の試験対策(全般),私の試験対策 (GA),私の試験対策(AP) 私が使用した試験テキスト(対策本)

- 2-3. 無料の試験テキスト(対策本)<タスク分野>, <知識分野> 私の試験対策 (サブノートの完成), (On Line 模擬試験教材の活用) (よりコンパクトなまとめノート)
- 2-4. AP (BD+C)出題内容のTIPS, AP (BD+C) 出題内容のTIPS アドバイス, LEED資格を取得して

3. V4 LEED AP 試験体験談 宮本 順子 氏

- 3-1. レンドリース・ジャパン建設部, Contents, My Exam History
- 3-2. GAとAPの試験内容の違い, お勧め教材
- 3-3. 実施した学習法, 最後に

*会員はQRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

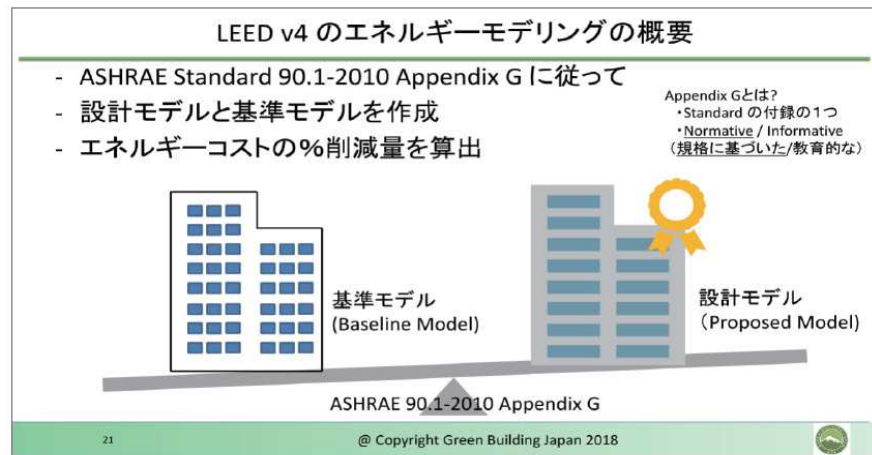
第43回 LEED エネルギーモデリングの概要

日時:2018年4月25日(水)
会場:アズビル(株) 本社会議室
講師:GBJテクニカル勉強会
エネルギーモデリングチームより
柳瀬 真紀氏
(ウイリディスMEPエンジニアリング)
本郷 創氏(清水建設)



日本では勉強する場も情報もほとんどなかったLEEDのエネルギーモデリングについて、GBJでは昨夏から有志が集まり勉強会を実施してきました。LEEDの概要を理解しており、これからLEEDのエネルギーモデリングを学びたい人を対象にその概要を解説します。

1. LEED認証システムとエネルギーモデリングBD+C, ID+C, O+Mの3種類の認証システムとエネルギーモデリング(O+Mは実績データによるベンチマーク)の関わり、関連する必須項目、加点項目の概要を説明し、エネルギーモデリングに取り組む意義を解説します。



2. LEEDのエネルギーモデリングの概要

LEED v4のエネルギーモデリングの目的、評価指標、参照基準、対象設備などの概要を、日本の建築物省エネ法に基づく省エネ計算と比較しながら解説します。基準モデルの作成については、外皮、空調、照明で例をあげて説明しています。

3. ASHRAE 90.1-2010の2007からの主な変更点

LEED v3からv4へのバージョン変更に伴い、参照するASHRAE Standard 90.1のバージョンも2007から2010に変更されました。LEED v4「エネルギーと大気」の必須項目の要求事項であるASHRAE90.1-2010の必須規定について、追加・変更された項目を取り上げ、解説します。

第11回 LEEDにおける コミショニングについて

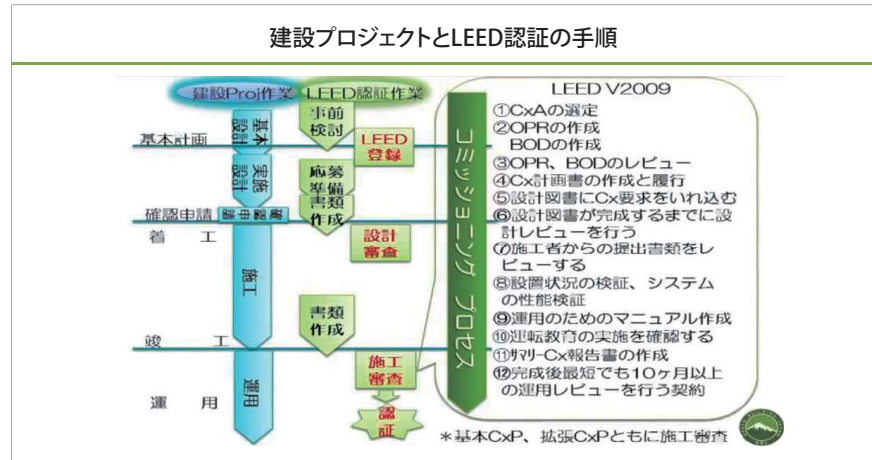
日時:2014年8月26日(火)
会場:アズビル(株) 本社会議室
講師:五島 賢哉氏
(Commtech Asia (Japan) Limited)
川島 実氏 (清水建設)
岸本 知子氏 (竹中工務店)



実務者向けセミナーとして、LEEDにおける「コミショニング」をテーマにその要件や実施のポイントを解説します。

第1部:コミショニングの概要 講演者:岸本 知子氏(竹中工務店)

国内におけるコミショニングの本質的な考え方を整理し、LEEDで求められるコミショニング(基本、拡張)の要件を概説しています。



第2部:LEEDコミショニングの流れやその内容 講演者:川島 実氏(清水建設)

LEED認証に必須となっている基本コミショニングの進め方、さらに、加点を得るための拡張コミショニングについて実際の経験から具体的に説明しています。

第3部:LEEDコミショニングの事例紹介 講演者:五島 賢哉氏(Commtech Asia (Japan) Limited)

国内外でのコミショニングコンサルティング実績にもとづき、LEEDにおけるコミショニングの特徴と実施のポイントを具体的に説明しています。

LEEDを離れ、サステナビリティ各方面の第一人者をお招きしてお話をうかがう「今だから話せる」シリーズも3回実施しました。GRESBやWELLのように近年USGBC/GBCIと連携が始まったツールについてもいち早く概要をご紹介します。

第41回「今だから話せる第3弾! スマートシティ・インターナショナル」

日時:2017年12月14日(木)
会場:イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA
講師:クレイ・ネスラー氏
(ジョンソンコントロールズ)



今だから話せる第3弾!としてジョンソンコントロールズのクレイ・ネスラー氏(グローバルエネルギーおよびサステナビリティ担当VP)をお招きし、世界11か国のスマートシティ計画に関する最新の調査結果とスマートシティに関するグローバルトレンドをお話いただきました。

同氏は2017年USGBCグリーンビルディングリーダーシップアワードを受賞されました。USGBCへの関わり・苦労話、将来の展望まで、Q&A時間をたっぷりとお話いただきました。

第34回「不動産セクターの サステナビリティ指標『GRESB』と 建築物」

日時:2017年4月21日(金)
会場:アズビル(株) 本社会議室
講師:高木 智子氏
(CSRデザイン環境投資顧問)



日本におけるGRESB普及にいち早く取り組まれてこられたCSRデザイン環境投資顧問の高木智子氏から、オランダ生まれのGRESBの成立、創始者である年金基金の狙い、日本での参加企業の動向など、GRESBを取り巻く背景にもじっくり時間を割いた解説があり、スムーズな導入のあとGRESBの仕組みについて学びました。GRESBが不動産向けの指標であるばかりでなく、省エネルギーコンサルタント、CSR報告書アドバイザーなど多様な職能のグリーンビジネスの機会にもなることなど、広がりをうかがわせてくれる内容でした。

1. GBCIとGRESB、GRESBIは不動産会社/ファンドレベルのESG指標
2. GRESBとは(GRESBメンバー/パートナー/サポーター、参加者数)
3. GRESBの評価項目(建築に関わる評価項目-省エネ・節水施策、省エネ診断、グリーンビル認証、省エネルギー格付など)
4. グリーン・プレミアム&ブラウン・ディスカウント(環境性能の賃料への反映)



*会員はQRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

近年注目を集めるWELL認証について、個別にワーキンググループを設け研究し、そこで得た知見などをセミナーで発信しています。各評価項目の詳細な説明や、事例紹介、WELL認証V2の解説などを取り上げてきました。

WELL Building Standard クレジット解説セミナー

WELL Building Standardの具体的なクレジットを知りたいという声を受け、2017年に2回にわたって、すべてのクレジットを解説するセミナーを開催しました。GBJに所属するWELL AP有資格者の川島実氏、フランサ氏、廣瀬氏、本郷氏の4人に分かりやすく解説いただきました。各回とも会場は満員で、WELL認証への関心の高まりがうかがわれます。

第36回 WELL Building Standard クレジット解説-1

日時:2017年6月26日(月)
会場:コクヨ(株)東京ショールーム 5階スタジオ
講師:川島 実氏 (ヴォンエルフ)WELL AP
フランサ・ジオニジオ氏 (ヴォンエルフ)WELL AP



ビデオ一般公開版 (約2分)

- ①全体概要
- ②Feature 1-37 空気+水



第37回 WELL Building Standard クレジット解説-2

日時:2017年7月28日(金)
会場:イトーキ 東京イノベーションセンター-SYNQA
講師:廣瀬 春奈氏 (日本設計)WELL AP
本郷 創 氏 (清水建設)WELL AP



- ①Feature 38-71 食物+光+フィットネス
- ②Feature 72-100 (105) 快適性+こころ

第25回 WELL Building Standardとは? ~日本で最も早い WELL認証に関するセミナー~

日時:2016年6月21日(火)
会場:宝町三清ビル5階 会議室
講師:奥 鍊太郎氏
シービーアールイー(セミナー時)



人を中心にして健康・快適な建物/空間を評価する認証制度「WELL認証」が2014年から始まっています。今回は、世界で初めてロスアンゼルスオフィスでWELL認証を取得するとともに、他のWELL認証取得も手掛けておられるCBRE(シービーアールイー株式会社)の奥氏からお話を伺いました。

1. WELL Building Standardとは? ~日本で最も早いWELL認証に関するセミナー~
日本:従業員の健康を促進する環境への社会的な注目傾向... 背景:人材のリテンションへの関心の高まり
企業にとってのファシリティの役割が大きく変化
次世代の人材とは?
次世代の人材が組織を選ぶ際のポイント
これからの人材を惹きつけるワークプレイスとは



2. 背景:キーワードは
米国:不動産業界における従業員の健康とウェルビーイングに対する関心の高まり
2012年、米国:WELL認証の発足
WELL認証への社会的な注目
Well building standardとは?
WELL™項目の人への影響と財務的メリットの関係
WELL認証の種類 WELL認証へのプロセス
WELLプロジェクト登録費用
ギャップ分析の例①
3. 世界初のWELL認証オフィス CBRE 本社
世界初のWELLプラチナ認証オフィス
オーストラリアの保険会社の事例
ワークプレイスのビジョンワークプレイスのコンセプト
利用できるスペースのタイプ
ユーザー視点で構築されたレイアウト
WELL-building standardの対象
環境が人に与える影響の大きさを再認識する時代

WELL Building Standard 評価項目一覧

AIR / 空気	27 表面の抗菌	51 食糧生産	74 外部騒音の侵入
01 空気環境基準	28 清掃しやすい環境	52 心豊かな食事	75 内部発生騒音
02 禁煙	29 清掃用具	LIGHT / 光	76 温熱快適性
03 効率的な換気	WATER / 水	53 ビジュアル照明デザイン	Mind / こころ
04 VOC低減	30 基本的な水質	54 サーカディアン照明デザイン	80 吸音面
05 空気ろ過	31 無機汚染物質	55 人工光のグレア制御	81 遮音
06 微生物とカビ制御	32 有機汚染物質	56 太陽光グレア制御	82 個別温度制御
07 建設段階の汚染管理	32 有機汚染物質	57 低グレアワークステーションの設計	83 輻射による温熱快適性
08 健康に配慮した入口	33 農業汚染物質	58 色の品質	85 インテグレイティブデザイン
09 清掃手順	34 上水添加剤	59 表面デザイン	86 入居後調査
10 農業殺虫剤管理	35 定期的な水質検査	60 自動遮光と調光制御	87 美しさとデザインI
11 基本的な製品の安全性	36 水処理	61 昼光を受ける権利	88 バイオフィリアI - 質について
12 湿気の管理	37 飲料水摂取の促進	62 昼光モデリング	89 適応性に優れた空間
13 エアークラッシュ	NOURISHMENT / 食物	63 採光	90 健康的な睡眠のポリシー
14 気密性管理	38 果物と野菜	FITNESS / フィットネス	91 出張
15 換気量の増加	39 加工食品	64 屋内のフィットネス動線	92 健康ポリシーの構築
16 湿度制御	40 食物アレルギー	65 活動へのインセンティブプログラム	93 職場における家族のサポート
17 発生源の直接的換気	41 手洗い	66 体系的なトレーニングの機会	94 自己モニタリング
18 空気質のモニタリングとフィードバック	42 食品の汚染	67 外部空間の活動的なデザイン	95 ストレスと依存症への対処
19 開閉可能な窓	43 人工的原材料	68 運動スペース	96 利他的行為
20 外気システム	44 栄養成分表示	69 アクティブ通勤への支援	97 材料の透明性
21 置換換気	45 食品広告	70 フィットネス器具	98 組織の透明性
22 害虫防除	46 安全な調理器具	71 アクティブな家具什器	99 美しさとデザインII
23 高度な空気浄化	47 一人前の分量	Comfort / 快適性	100 バイオフィリアII - 量について
24 燃焼の最小化	48 特別な食	72 アクセスのしやすい設計	101~105 インノベーション項目
25 有害物質の低減	49 責任ある食品生産	73 エルゴノミクス:視覚的および身体的事項	
26 強化された材料安全性	50 食品の保管		

第42回 WELL認証の最新動向 ~改訂バージョンv2情報など

日時:2018年3月20日(火)
会場:(株)ヴォンエルフ1階 プレイスW
講師:今井 康博 氏 (大林組)
川島 実氏 (ヴォンエルフ)



WELL Building Standardは2014年に初版v1がリリースされた後も改良を加えながら進化を続け、2018年には大幅に改定されたv2の運用が始まります。このセミナーでは、WELLの基礎知識に加え、WELL認証の最新動向を取り上げ、紹介しました。

- WELL認証の情報収集先
- WELLホームページのリソース
<https://www.wellcertified.com/en/resources>
- WELL V1 認証のタイプ
- 認証システムの種類
- ①「新築/既存建物版」



- ②「新築/既存インテリア版」
- ③「コア&シェル版」
- WELL AP 認定プロフェッショナル
- WELL AP (WELL Accredited Professional) は、WELL評価システムにおける専門性と高度な知識を有する専門資格です。
- 日本国内にて、英語+日本語併記で試験を受けることができます。
- WELL 登録・認証案件数
- Wellbeingと投資関連情報
- IWBIのWEBページに多くの認証取得例
- WELL Building Standard v1の改訂
- WBS 改訂内容の例
- WELL Building Standard 実際の審査過程
- All Project In とは
- AAP(代替適合手段)とは
- IEP(国際同源性プロポーザル)とは
- 便利なアプリ

*会員はQRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

LEED認証プロジェクト見学会

GBJセミナーの中でも特に人気のあるプログラムです。実務に関わった関係者が現場で語るグリーンビル実現の苦労話に耳を傾け、リアルに空間を体験することで、GBJ会員どうしの学びと交流の場になっています。



大林組技術研究所本館テクノステーション
LEED-EBOM v2009 Platinum
<https://www.gbj.or.jp/seminar9-data/>



大成建設技術センターZEB実証棟
LEED-NC v2009 Platinum
<https://www.gbj.or.jp/seminar15data/>



YKK80ビル
LEED-CS v2009 Platinum
<https://www.gbj.or.jp/seminar26data/>



鹿島技術研究所本館「研究棟」
LEED-EBOM v2009 Platinum
<https://www.gbj.or.jp/seminar22data/>



ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター
LEED-NC v2009 Platinum
<https://www.gbj.or.jp/seminar29data/>



柏の葉スマートシティ LEED-ND v4
2017年GBJ春のシンポジウム



Tri-seven Roppongi
LEED-CS v2009 Gold
<https://www.gbj.or.jp/seminar39data/>



一般公開ビデオライブラリーの紹介

GBJ主催イベントの紹介やGBJ関係者のインタビューの様子をまとめた動画をご紹介します。いずれも5分程度のコンパクトなものですので、手軽に雰囲気をご理解いただくのに適しています。



<https://www.gbj.or.jp/document/open-video/>

第36回セミナー WELL Building Standard 公開版(約2分)

人を中心にして健康・快適な建物/空間を評価する認証制度「WELL 認証」について第36回セミナーの一部をご紹介します。



GBJ冬のシンポジウム2015“変わりゆく環境ビジネス”

急拡大する環境ビジネスに焦点を当て、その変化と今後の展開について幅広い分野の皆さまとともに見通してみたいと考え開催しました。



2017年GBJ春のシンポジウム

ESG、CDP、GRESBとの広範な接点、単なる「環境」の枠組みや「単一不動産」の敷地境界線を超えて、コミュニティの健康、快適性、生産性、都市の持続可能性評価への発展と、次なるステージを予感させるシンポジウムを開催しました。



第13回セミナー LEED ND(エリア開発版)についてダイジェスト版(約2分)

LEED NDとは何か、世界での認証状況、日本のエリア開発に与える影響、日本での普及の課題は何かなど、LEED NDの基礎知識から面白さ・難しさまで、全体像をお届けします。



Introducing LEED Fellow Hiroki Hiramatsu

日本でもLEEDプロジェクトが増えつつあり、街区を評価するLEED-NDにまで対象が広がってきている中で、現在の日本の街の課題や社会的な背景はどのような状況にあるのか。共同代表理事の平松宏城がインタビューに答えました。



LEED/エコリーフセミナー LEEDの概要

2014年12月12日にエコプロダクツ展2014の中で開催されました共同代表理事の浦島茂がLEEDの概要—グリーンビルディングジャパンのご紹介を共催セミナーにて行いました。



GBJ会員による論考、インタビュー記事

GBJの理事、会員が執筆した記事については掲載誌担当者のご理解をいただき、PDFを公開しております。

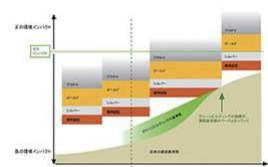
<https://www.gbj.or.jp/document/resources/>



“基礎から学ぶ「グリーンビルディング認証」” WEBマガジン「BUILT」(2017年)

ソフトバンク系の電力・エネルギーの専門メディア「スマートジャパン」による「BUILT」というWEBマガジンの連載です。LEED、WELLの概要および、評価クレジットの細かいところまでを、一から解説しており、好評を博しています。

第1回 LEED認証とは何か、
取得のメリットと概要を知る
今井康博 (GBJ理事/大林組)



第2回 WELL Building Standardとは？
その価値、メリットとは？
川島実 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)



第3回 LEED認証とWELL認証とのシナジー、両評価の
重複評価項目に関する技術的考察
永積(安原)紀子 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)



第4回 人と環境に優しい低VOC材、日本でLEED・
WELLのクレジット取得率が低い理由
牧田 碧夏 (GBJ運営委員/UL Japan)



“建築設備士”建築物環境性能評価と 省エネルギー性能 特集” JABMEE機関誌 “建築設備士”(2015年5月号)



一般社団法人 建築設備技術者協会 (JABMEE) 発行の2015年5月号に「建築物環境性能評価と省エネルギー性能 特集」が掲載されました。LEEDの最新動向や認証取得建物の事例紹介記事があります。

1. 建築環境評価システムおよび省エネルギー性能評価システムの最新動向

・LEEDの概要および最新動向について
菅健太郎 (GBJ理事/Arup)



・エリア開発版LEED-NDと二子玉川東地区
再開発における日本初適用について
平松宏城 (GBJ共同代表理事/ヴォンエルフ)



2. 認証取得・評価建物事例紹介

・日建設計東京ビル
堀井めぐみ (GBJ運営委員/日建設計)



・清水建設本社ビル
川島実 (GBJ運営委員/清水建設)



・大林組技術研究所 本館 テクノステーション
石川英樹, 島岡宏秀, 小野島一, 伊藤剛
(GBJ法人会員/大林組)



・大成建設技術センター ZEB実証棟
熊谷智夫, 梶山隆史, 山口亮, 田中拓也, 吉田三香
(GBJ法人会員/大成建設)



・イオンモール幕張新都心
永森俊博, 柳内伸介, 山田安幸, 石川学
(GBJ法人会員/大林組)



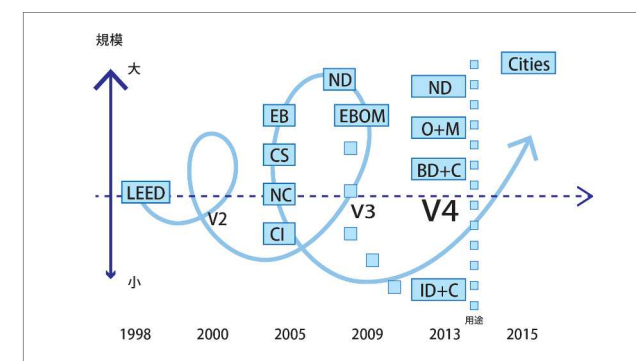
(所属等は掲載時)

“ロングライフビルとLEED 2018” BELCA書籍「ビルと省エネルギー」 (2018年1月発行)



大村 紋子 (GBJ理事/レンドリース・ジャパン)

公益社団法人ロングライフビル推進協会 (BELCA) の機関誌「BELCA NEWS」に掲載された省エネ関連記事、ZEB 関連記事、環境性能評価関連記事などをまとめた書籍です。同名タイトルの2015年1月号掲載分を大幅に加筆して2018年版とし、ArcやLEEDの小規模の改訂 (V4.1) などの新しい動向を盛り込んで、サステナブルなBuilt Environmentの構築方法を考察しています。



“都市計画とLEEDとの接点” 「都市計画家 Planners」 (2017春号) 冒頭インタビュー



平松 宏城 (GBJ共同代表理事/ヴォンエルフ)

都市の在り方についての幅広い社会課題を自立可能なビジネスの視点から捉え直す時、LEEDという性能評価が有効に機能する、そんな可能性を感じさせてくれるインタビュー記事です。



“健康によりオフィス空間を評価する取り組み 「へるすあっぷ21」(2017年9月号)



「健康によりオフィス空間を評価する取り組み」として、「WELL」認証についてのインタビュー記事が、月刊誌『へるすあっぷ21』2017年9月号 (HEALTH TOPIC) に掲載されました。「WELL」の背景や理念、概要が、紹介されています。『へるすあっぷ21』は、企業や健康保険組合等の職域の健康管理担当者等が購読層の月刊誌です。

取材対応: 今井 康博 (GBJ理事/大林組)



エコプロダクツ展2014 LEED/エコリーフセミナー



2014年12月12日 GBJと(一社)産業環境管理協会 (JEMAI) 共催セミナーの内容を掲載しています。

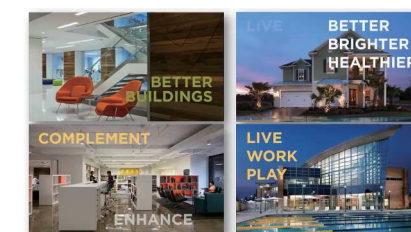
浦島 茂 (GBJ共同代表理事/インテル)

LEEDの概要—グリーンビルディングジャパンのご紹介
(1) LEEDとは (3) LEEDと環境ラベリング
(2) LEEDの現状と将来 (4) GBJとはどういう組織か

永積(安原)紀子 (GBJ運営委員/ヴォンエルフ)

事例紹介(ヴォンエルフの例)

日本国内のプロジェクトにおけるLEED認証の活用について紹介



*QRコードからより詳しい情報をご確認いただけます。

Q&A

<https://www.gbj.or.jp/qanda/>

GBJへ寄せられたさまざまな質問のうち、多くの回答はGBJホームページにて一般向けに公開されています。



GBJについて

Q1-1. GBJが目指しているものは何ですか？

GBJは、世界標準の環境評価ツールの一つであるLEEDの普及を通じて、日本にグローバルなグリーンビルディングの取り組みを根付かせることを目的に設立されました。日本のみならず世界で環境への取り組みが転換点を迎えている今、私達人一人ひとりが本当のサステイナブルな社会環境を作り出すために出来ることは何か。GBJでの活動を通じて、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思えます。現在はLEEDだけでなく、WELL, Sites, GRESBなどGBCIの認証プログラムをすべて活動範囲としています。

Q1-5. GBJはどのように運営されますか？

GBJは、理事、委員会メンバー及び会員のボランティアとしての活動で支えられています。

入会・会員特典について

Q2-5. GBJ会員の役割と会員になるメリットは？

- GBJの活動全般へ参加できます
- 委員会のメンバーからの推薦を受けて委員会メンバーになることができます(委員会メンバーは、GBJのためにボランティアで活動します)
- 会員専用ページ上で会員同士で情報交換が出来ます
- 会員専用ページからGBJで用意した資料をダウンロードできます
- GBJのセミナーやトレーニングを受ける際に割引があります
- GBJの会員であることを名刺に表記できます

Q2-13. イベントやセミナーを開催する際にGBJの会員にも案内を送付することは可能でしょうか？

法人会員特典として、GBJのホームページイベントやセミナーの告知をすることができます。事前にGBJ理事の承認が必要となり、ニュース掲載が10ポイント、メールマガジン掲載が1回30ポイントとなっています。(トークンポイント 1ポイント=1,000円相当です)

Q2-28. WGや勉強会に参加するには費用が発生しますか？

GBJの会員の方には年会費を負担していただいておりますが、各WG・勉強会への参加に対しては一切の費用負担はございません。ボランティアでの協力をいただいているので、交通費などの自己負担は発生いたしません。

Q2-30. WELL WGに参加させていただけますか？

GBJの会員(法人会員,正会員,一般会員)であれば、WELL WGへの参加資格があります。WELL WGの活動は徐々に増えそうですが、現在は日本でのハードルを低くするための活動をしています。WELL要件と同等の日本基準を認めてもらうよう、働き掛けることが主となると思えます。具体的には募集中です。

例: ADA同等、Blue angel同等など

LEED資格・受験について

Q3-3. どこで試験を受けることができますか？

下記ホームページから試験の申し込みができます。

<http://usgbc.org/credentials>

申し込みをする際にはUSGBC/GBCIへの会員登録が必要となるかもしれませんが、(これ自体は無料です)

試験は、プロメトリックという試験代行専門会社が行っており、会場が空いている時間帯であればいつでも受験可能です。会場は、最近試験を受けた方によると、以前は東京二箇所、大阪一箇所だったのが、現在は東京一箇所(お茶の水)、大阪一箇所になっていたとの情報がありますが、あくまでも仄聞ですのでそれ以外の試験会場があるかどうか、ご自身で上記URLにてチェックしていただくことを推奨いたします。

GBJホームページ(会員専用ページ)では、受験申込方法や勉強方法を具体的に紹介しています。

<https://www.gbj.or.jp/seminar20data/>

<https://www.gbj.or.jp/seminar31data/>

正会員またはWEB会員になっていただきますと、これらの資料にアクセス出来ます。



Q3-5. 受験用に何を準備すれば良いですか？

LEEDグリーン・アソシエイト試験の準備に有用なLEEDコアコンセプトガイドの日本語版がリリースされました。(2016年2月)

<http://www.usgbc.org/resources/leed-core-concepts-guide-japanese>

LEEDグリーン・アソシエイトについては特に科目(専門)に分かれていませんので、まずは上記で学習を進められてはいかがでしょうか?またUSGBCだけでなくその他民間団体のWebinarなどもあります。

追記: LEED v4 Rating System (BD+C, ID+C, O+M)の日本語訳版がUSGBCのWEBサイトにて、無料公開されました。(2017年1月)



LEED認証、USGBCについて

Q4-12. 最新の世界各国でのLEEDの普及状況

<http://www.usgbc.org/advocacy/country-market-brief>

画面の説明文にある通りPDF形式でダウンロードすることもできます。最初の画面はUSの状況を紹介していますが、Countriesのプルダウンメニューで国名を選ぶと、各国の最新の情報が分かります。カーソルを表やグラフに合わせることで興味深いデータを見ることができます。



Q4-15. 製品での認証は取得できますか？

USGBCでは製品単位で認証を与えることはしていません。USGBCの定めた規格にもとづいて取得されたもの(ここではSRI値)がある範囲に入っている場合、それを案件に使うと加点の可能性が出るということになります。また個別の製品に限らず、例えば既にある日本の基準をUSGBCに働きかけていくようなことを考えられている場合は、GBJに会員として参加いただくことも一つの方法ですのでご検討ください。

Q4-19. ビル入居者のメリットは？

省エネルギーや節水を達成することにより、テナント企業のイメージアップを図れるだけでなく、LEEDのIEQカテゴリーは室内環境の向上を目的としており、ビルのユーザーひとりひとりに直接働きかけるメリットがあります。具体的には、換気状況のモニタリングや厳密な喫煙室基準、オフィス内の眺望確保、有害化学物質不使用の内装材使用などがユーザーの健康を良好な状態(well being)に保つことに寄与します。自己評価ではない100%第三者認証を通じて、エネルギーや節水性能の高さを国際的に認知されている定量的評価基準で示せます。日本でも、世界標準を目指すプロジェクトでの採用が増えてきています。

Q4-40. LEEDの申請費用の概要を教えてください。

掲載されているページを見つけれません

英語ですが下記が該当ページのリンクとなります。

<http://www.usgbc.org/cert-guide/fees>



Q4-44. V4 レファレンス 無料版があるということは、詳細は有料版として会員限定公開や書籍化を予定しているのでしょうか？

V4 レファレンス(LEED v4 Rating System)無料版は、通常500ページほどのレファレンスガイドブック(有料、USGBC会員割引あり)の抜粋版です。無料版のダウンロードにより、LEEDの概要をほぼ把握することができます。一方、レファレンスガイドブックは具体的なプロジェクトにおける申請に関わる方向けの内容であり、これまでと同様に日本語訳版の作成・販売予定はありません。

LEEDクレジットについて

Q5-1. プロジェクトのチェックリストとは

プロジェクトのチェックリストと呼ばれているものは、クレジット項目の名称と獲得可能ポイントの一覧表です。

LEEDのアプリケーションごとに獲得可能ポイントが違います。例えば新築でも用途によって8種類分かれています。

これらをまとめて、クレジット項目を和訳したものを会員用に用意しています。

Q5-9. 建物でのエネルギー消費の「コスト換算」とはどのようなものなのでしょうか？

「コスト換算」とは当該プロジェクトで使用する電力会社、ガス会社、燃料会社、地域熱供給会社などのエネルギー単価でコストに換算したものを言います。LEEDとして固定的に定める単価や換算式のようなものはありません。

詳しくは、LEED reference guide やUSGBCのWEBサイトにある、各クレジットの内容が示されているLEED credit library にてEAカテゴリーのエネルギー使用関係のクレジット(Minimum energy performance等)をご覧ください。

WELLについて

Q6-2. WELL認証の評価方法等が分かる資料はありますか？

WELL認証関連の評価方式などは以下のリンクより入手可能です。(無料)

<https://www.wellcertified.com/resources>

ここで「Japanese」を選択すると日本語化された資料がダウンロードできます。但し、日本語版は古いバージョンを翻訳しているのでご注意ください。



Q6-32. WELLの資格試験は、日本語版なら記述式回答でしょうか？

WELL APの受験形式ですが、PC画面に向かっての試験となります。英語が基本ですが、日本語併記です。100問選択式2時間で、終了後、すぐに点数が分かり、合否も分かります。なお、関連情報として、以下も参照ください。

<https://www.gbj.or.jp/well-ap-japanese20170901/>

https://www.gbj.or.jp/well_japanese20170821/



What's GBJ?

GBJとは?



<https://www.gbj.or.jp/gbj-introduction/>

理事

共同代表
浦島 茂

インテル Corporate Services Regional Staff Architect,
LEED Fellow, USGBC Faculty,
LEED AP BD+C & O+M, WELL Faculty



共同代表
平松 宏城

ヴォンエルフ代表取締役, LEED Fellow,
USGBC Faculty, LEED AP BD+C & ND,
CASBEE不動産評価員



大村 紋子

Senior Project Manager, レンドリース・ジャパン
LEED AP BD+C



今井 康博

大林組 設計本部
LEED AP BD+C, WELL AP,
CASBEE建築評価員, CASBEE不動産評価員



棚田 英之

グリーンビルディングジャパン, LEED AP BD+C



荒金 隆

GBCI Japan



監事

小山 暢朗

ヴォンエルフ LEED AP ID+C, 米国公認会計士



GBJは現在4つのワーキンググループ(WG)、2つのテクニカル勉強会を通じて活動しています。活動の進捗は月1回の運営委員会で共有され、課題について協議します。運営委員会、WG、セミナーなどの会合は都区内の会員企業の会議室にて随時開催しますが、1年ほど前から遠隔地でのリモート参加ができるような設備を整えました。事務局の業務はすべてメール、ウェブサイトを通じて行っています。事務局を設置できるシェアオフィスを探しておりますので、適地をご紹介いただける場合はGBJ事務局までお知らせください。活動内容に関するお問い合わせもお待ちしております。

運営委員会メンバー・ワーキンググループ

セミナーWG

一般向けの普及活動と会員同士の学びを目的としたセミナーの企画と開催等

大村 紋子 【Head】(レンドリース・ジャパン)

歳弘 浩三 【主査】

(Green Consulting Services)

川島 実 (ヴォンエルフ)

岸本 知子 (竹中工務店)

高木 智子 (CSRデザイン環境投資顧問)

橋本 誠 (ジョンソンコントロールズ)

水谷 佳奈 (アズビル)

大橋 真人 (コクヨ)

平井 雅子 (竹中工務店)

米田 桜子 (ジョンソンコントロールズ)



歳弘

コンテンツWG

GBJ発信情報コンテンツの拡充。LEED関連資料の翻訳。
USGBCのLEED文書日本語訳レビューへの協力等

村上 正吾 【Head】(大成建設)

今井 康博 (大林組)

歳弘 浩三 (Green Consulting Services)

橋本 誠 (ジョンソンコントロールズ)

小山 暢朗 (ヴォンエルフ)

宮本 順子 (レンドリース・ジャパン)

棚田 英之 (グリーンビルディングジャパン)

宮崎 淳 (日本設計)

大木 泰祐 (大成建設)



村上

WELL WG

WELL日本語版作成の協力、日本版AAP(※P.5参照)
実現に向けたIWBIとの協議等

川島 実 【Head】(ヴォンエルフ)

今井 康博 (大林組)

木下 泰 (MS Investment, Inc.)

八木 佳子 (イトーキ)

村上 正吾 (大成建設)

大橋 真人 (コクヨ)

齋藤 敦子 (コクヨ)

浦島 茂 (インテル)

柳瀬 真紀 (ウィリディスMEPエンジニアリング)

古川 真規 (日建設)

菱田 哲也 (オートデスク)

廣瀬 春奈 (アワードデザイン)

宮崎 淳 (日本設計)

沢田 英一 (清水建設)

齋藤 千秋 (TOTO)

勝川 陽代 (イトーキ)

荒金 隆 (GBCI-J)

垣屋 譲治 (オカムラ)

伊東 繁孝 (JPM)

木下 良介 (ヴォンエルフ)

植木 俊 (シャープ)

吉澤 伸記 (ERM日本)

似内 志朗 (日本郵政)



川島

テクニカル勉強会

LEED認証におけるACP(Alternative Compliance Path)

(例: 米国基準を同等の日本基準で置き換える等、日本の事情に合致した代替パス)の
ルート構築、提案を行うACPチームと、エネルギーモデリングの
勉強会を行うエネルギーモデリングチームの2チームに分かれて
活動を行っています

棚田 英之 【Head】(グリーンビルディングジャパン)

齋藤 千秋 (TOTO)

歳弘 浩三 (Green Consulting Services)

宮崎 淳 (日本設計)

柳瀬 真紀 【主査】(ウィリディスMEPエンジニアリング)

菱田 哲也 (オートデスク)

本郷 創 (清水建設)

向野 能里子 (パデコ)

永積 紀子 【主査】(ヴォンエルフ)

米田 桜子 (ジョンソンコントロールズ)

宮本 順子 (レンドリース・ジャパン)

荒金 隆 (GBCI-J)



永積

事務局・交流会

伊藤 政人 (Colors Wrok Environment)

伊藤 瞳

楠 春菜

マテリアルWG

マテリアルライブラリーの構築・運営

林 昌明 【Head】(前田建設工業)

牧田 碧夏 (UL Japan)

齋藤 千秋 (TOTO)

本郷 創 (清水建設)



林

2018年6月15日現在

関西支部

GBJ設立5周年記念シンポジウムを機に、関西支部が発足しました。

LEEDやWELLは、サステナブルな建築環境や都市、健康で働きやすく住みやすい空間や仕組みの構築についての定量的評価指標であるのみならず、私たちに大きな気づきを与えてくれます。しかし、グローバルスタンダードゆえに、日本の基準との差異や言語などの点で、壁を感じる方も少なくないと思います。

GBJでは、セミナーやWG・勉強会、ウェブ上のコンテンツなどにより、日本でLEEDやWELLを普及するために必要な情報提供や会員相互の交流を推進してきました。しかし、リアルな交流は、一部の見学会を除き、東京で実施されてきました。

今回、関西支部の発足により、関西でリアルな交流が可能になります。関西在住の方、ぜひ関西支部にご参加いただき、より良い建築環境や都市、健康な社会のために皆さんで情報交換しませんか。お待ちしております。



柳瀬

柳瀬 真紀

(ウィリディスMEPエンジニアリング)

東海支部

東海支部は名古屋を拠点に活動しています。

2018年4月に結成されたばかりの新しい支部ですが、東京のメンバーと連携しながら、幅広い業界の方々との交流や情報交換を通じて、東海地区におけるグリーンビルディング普及の一助となるよう頑張っています。

2027年にリニア中央新幹線が開通することから、今後、東海地区では広域的な連携やまちの活性化に向けた様々な取り組みが進められます。

東海支部では、GBJ活動を地域のサステナブルな環境づくりに少しでもつなげていきたいと考えています。同じ想いを持つ方、ご興味のある方は是非お問い合わせ下さい。



岸本

岸本 知子 (竹中工務店)

橋本 誠 (ジョンソンコントロールズ)



橋本

入会案内



<https://www.gbj.or.jp/gbj-introduction/membership/>

GBJはサステイナブルな社会づくりをめざす人々が連携する共用の場です。分野・専門を問わず、理事、運営委員、ワーキンググループメンバー一人ひとりのボランティアな参加によって成り立っています。日本にグローバルなグリーンビルディングの取り組みを根付かせること、そして日本の技術や人材、取り組みがグローバルに認知され、国内外の隔てなく活躍できるような環境を整えたい、それが出発点でした。私たち一人ひとりが本当のサステイナブルな社会環境を作り出すためにできることは何か。活動を通じて会員みなさんとGBJの組織そのもののあり方も一緒に考えていきたい。とくに将来を担う若手の方たちに所属会社の枠を超えてお集まりいただきたい。この思いは活動の範囲がLEEDだけでなくWELLやGRESBへと広がっても変わりません。みなさんご参加を心よりお待ちしております。



個人会員(新制度)

GBJでは個人と法人のメンバーを随時募集しています。個人会員制度は現在新制度へ移行中です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

個人会員					
会費種別	正会員	一般会員	学生会員	WEB会員	メルマガ会員
入会金	なし/ No entry fee				
年会費*	20,000円 ※1	10,000円 ※1	3,000円 ※2	3,000円 ※2	無料
セミナー等への参加	○ 無料/会員割引料金	○ 無料/会員割引料金	○ 無料/会員割引料金	× すべて有料	× すべて有料
GBJホームページ会員専用ページの閲覧 (ビデオライブラリーなど)	○	○	○	○	×
メルマガの配信 (ホームページ更新速報、セミナー案内など)	○	○	○	○	○
会員総会への参加	○	参加可/議決権無	参加可/議決権無	×	×
運営委員会への参加	○要推薦 会費免除規定あり	× ※3	○(オブザーバー)	×	×
WGへの参加	○	○	×	×	×

※1 入会年の年会費は、1~3月入会:年会費と同額、4~6月入会:年会費の3/4、7~9月入会:年会費の1/2、10~12月入会:年会費の1/4 となります。
 ※2 入会年の年会費は、1~6月入会:年会費と同額、7~12月入会:年会費の1/2 となります。
 ※3 新規にGBJ運営委員会メンバーになりたい方は、事務局もしくは運営委員に連絡ください。
 *事業年度内に使い切らなかったトークンポイントは、同会員種別にて継続の場合のみ次年度に繰り越すことが出来ます。

- ・新制度への移行期間は2018年6月15日から12月31日までです。
- ・この間に新制度の一般会員(年会費 1万円、一社法上の社員ではない、会員総会の出席権なし、それ以外の会員特典は旧制度と同じ)を募集します。
- ・一般会員では無く、新制度の正会員(年会費 2万円、一社法上の社員、会員総会の出席権及び議決権あり)を希望される方は、移行期間に限って年会費 2万円では無く 1万 2千円です。(ただし議決権を行使できる臨時総会は年内は予定していない)
- ・この金額は入会時期による割引があります。
- ・正会員もしくは一般会員は自動継続ではありません。

メールマガジン

<https://www.gbj.or.jp/contactus/mailmagazine/>



ホームページ更新速報、セミナーのご案内などをメール配信します。

配信頻度：月 1~2 回程度

配信形式：テキスト形式

購読料金(年会費)：無料

お問合せ: gbj-adminioffice@gbj.or.jp

法人会員

法人会員の年会費および特典一覧表 Annual Fee for Corporate Membership				
会費種別 Membership Levels	グリーン会員 Green Membership	シルバー会員 Silver Membership	ゴールド会員 Gold Membership	プラチナ会員 Platinum Membership
入会金	なし/ No entry fee			
年会費*	100,000円	250,000円	500,000円	1,000,000円
付与されるポイント(買増し可)**	100	250	500	1000
GBJ法人会員紹介ページに法人会員のロゴ表示	レイアウト・サイズについてはGBJが会員種別毎の会員数に基づき決定			
GBJ 法人会員紹介ページからリンクする法人企業の情報発信サイトの提供	法人会員企業であればフリーポイントで掲載可能 但し、フォーマットのカスタマイズ等希望の場合相談による			
マテリアルライブラリー(準備中)掲載	トークンポイントを使って掲載可能			
セミナー参加	ポイントを使って法人会員社員であればだれでもセミナー参加可能 非会員セミナー受講料 3,000円=3ポイント 5,000円=5ポイント その他受講料のものについては1,000円=1ポイントと換算			
イベントの告知や求人等をGBJホームページやメルマガに掲載	ニュース欄掲載10ポイント、メールマガジン 1回30ポイントを使って掲載可能			
出張セミナー・講演・パネルディスカッション	出張セミナー：内容・時間によりポイント利用にて可能。要相談。 講演・パネルディスカッション：1時間以内50ポイントでトークン利用可。			
GBJ Credit Compliance	法人会員企業の製品が、LEEDの要件を満たす場合、GBJとしてCredit Complianceを承認する。			
イベント・セミナーへの協賛	法人会員企業がLEED製品展示会・セミナーイベント等を開催する場合に、当該製品やセミナーの趣旨に対しGBJが協賛する。			
会員専用HPへのアクセス権	法人企業内無制限利用50ポイント(必須)			
法人会員代表者を会員総会や運営委員会へ参加	法人会員企業の代表者1名参加可能(代表者が同企業の社員を代理人として指名すること可)			

*入会年の年会費は、1~3月入会:年会費と同額、4~6月入会:年会費の3/4、7~9月入会:年会費の1/2、10~12月入会:年会費の1/4 となります。
 **事業年度内に使い切らなかったトークンポイントは、同会員種別にて継続の場合のみ次年度に繰り越すことが出来ます。

Corporate members

略語説明

- GBJ Green Building Japan
一般社団法人 グリーンビルディングジャパン
- LEED Leadership in Energy & Environmental Design
最高クラスのビルト・エンバイロメントを作るための戦略やそれらをどう実現させるかを評価するグリーンビルディングの認証プログラム
- WELL WELL Building Standard
空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造を目指した評価システム
- Arc Arc Skoru Inc.
GBCIの配下に設立された、建物・地域などのパフォーマンスを測るためのプラットフォーム。運用性能の改善を図り、ベンチマークとの比較評価を可能とする。
- USGBC U.S. Green Building Council
LEEDの開発を行う非営利団体(NPO):米国グリーンビルディング協会
- IWBI International WELL Building Institute
WELL Building Standard の開発、運営を行う公益企業(PBC): 国際ウェルビルディング協会
- GBCI Green Business Certification Inc.
LEED、WELL Building Standard、GRESBなどの認証、専門資格者の管理を行う第三者機関
- GRESB グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク
- ACP Alternative Compliance Path
オルタナティブコンプライアンスパス

Silver



Green

